

専 門 実 践 教 育 訓 練 明 示 書（古賀国際看護学院）

講座の名称	医療専門課程 看護学科				
実施方法	① 通学（ <u>昼間</u> ・夜間・土日） ② 通信 スクーリング（回数 回）				
指定講座番号（15桁）	4012006	—	2410011	—	9
講座の創設年月日	専門実践教育訓練給付金 対象講座の指定期間 平成28年4月1日	過去一 年の講 座実績	入講者数（人）	修了者数（人）	
令和9年3月31日まで					
訓練期間	36ヶ月		総訓練時間	2937時間	
1. 教育訓練目標					
①取得目標とする資格の名称、目標レベル		☒ 業務独占資格・名称独占資格（ 看護師 ） ☐ 職業実践専門課程（ ） ☐ キャリア形成促進プログラム（ ） ☐ 専門職大学院（ ） ☐ 職業実践力育成プログラム（ ） ☐ 情報通信技術関係資格（ ） ☐ 第四次産業革命スキル習得講座（ ） ☐ 専門職大学、専門職短期大学、専門職学科（ ）			
		教育訓練を通じて取得を目指す上記以外の資格等			
②①に係る資格・試験等の実施機関名称		厚生労働省			
③当該資格等を取得するための要件または受験資格等		保健師助産師看護師法第21条第1項第2号の規定に基づき、文部科学省令・厚生労働省令で定める基準に適合するものとして、文部科学大臣の指定した学校において三年以上看護師になるのに必要な学科を修めた者			
④当該技能・知識の習得が必須又は有利となる職種・職務及び習得された技能・知識が活用されている業界と活用状況		医療・福祉を中心とした看護業界全般 医療施設（病院、クリニック、助産所）、保健福祉施設などで看護師として従事			
2. 教育訓練の内容					
教科（カリキュラム）		時間	使用教材名		
別紙		別紙	本校シラバスを参照のこと		
3. 受講者となるための要件（この講座を受講するために必要とされている条件など）					
①受講するに当たって必要な実務経験等		特になし			
②受講者が受講に最低限有しておくべき資格・技能・知識等の内容及びその水準		高等学校を卒業若しくは卒業見込み又は監督庁の定めるところによりこれと同等以上の学力を持っていること			
③その他		特になし			

〔 特 記 事 項 〕

--

専門様式第2号(3/7)4. 教育訓練の内容(カリキュラム) 別紙

教育内容		n	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30
		文化人類学	1	15
		教育学	1	30
		人間工学	1	30
		情報科学	1	30
	人間と生活・社会の理解	家族と社会学	1	30
		心理学	1	15
		人間関係論	1	30
		国際関係論	1	15
		カウンセリング論	1	15
		スポーツレクリエーション	1	15
		中国語	1	15
		英会話	1	15
		医療英語	1	30
	基礎分野 単位数 時間数			14 315
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ(総論、消化器、呼吸器、血液・造血、循環器)	1	30
		解剖生理学Ⅱ(腎・泌尿器、内分泌・代謝、運動器)	1	30
		解剖生理学Ⅲ(脳・神経、感覚器、女性生殖器)	1	30
		生化学	1	30
		栄養学	1	30
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	15
		疾病論Ⅰ(呼吸器)	1	15
		疾病論Ⅱ(循環器、血液・造血器)	1	30
		疾病論Ⅲ(消化器、腎・泌尿器)	1	30
		疾病論Ⅳ(内分泌・代謝)	1	15
		疾病論Ⅴ(運動器・脳・神経)	1	30
		疾病論Ⅵ(女性生殖器、アレルギー・感染症、放射線)	1	30
		疾病論Ⅶ(感覚器)	1	30
		薬理学	1	30
		微生物学	1	30
		看護につなぐ	1	30
	健康支援と社会保障制度	社会福祉	1	30
		看護関係法令	1	15
		公衆衛生	1	30
		総合医療論	1	15
		暮らしを支えるチームケア	1	15
		看護の場を知る	1	15
	専門基礎分野 単位数 時間数			22 555
	基礎看護学	看護学概論	1	30
		看護理論	1	15
		生活援助技術Ⅰ(看護技術とは 環境)	1	15
		生活援助技術Ⅱ(清潔・衣生活)	1	30
		生活援助技術Ⅲ(活動・休息)	1	15
		生活援助技術Ⅳ(食事・排泄)	1	30
		看護共通技術Ⅰ(コミュニケーション)	1	15
		看護共通技術Ⅱ(ヘルスアセスメント)	1	30
		看護共通技術Ⅲ(安全・安楽の技術)	1	30
		看護共通技術Ⅳ(看護過程展開の技術)	1	30
		診療の補助技術	1	30

教育内容		新カリキュラム	単位数	時間数	
専門分野	地域・在宅看護論	暮らしと健康	1	15	
		地域を視る	1	15	
		地域保健活動	1	15	
		地域・在宅看護概論	1	30	
		地域・在宅看護方法論Ⅰ（在宅療養を支える技術）	1	30	
		地域・在宅看護方法論Ⅱ（状態別看護）	1	30	
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	
		成人看護学方法論Ⅰ（慢性期看護）	1	30	
		成人看護学方法論Ⅱ（急性期看護）	1	30	
		成人看護学方法論Ⅲ（回復期看護）	1	30	
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	
		老年看護学方法論Ⅰ（ADLに障害を有する高齢者の看護）	1	30	
		老年看護学方法論Ⅱ（疾病論　認知症を有する高齢者の看護）	1	30	
	小児看護学	小児看護学概論	1	30	
		小児看護学方法論Ⅰ（疾病論）	1	30	
		小児看護学方法論Ⅱ（健康問題を有する小児の看護）	1	30	
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	
		母性看護学方法論Ⅰ（マタニティサイクルにおける看護）	1	30	
		母性看護学方法論Ⅱ（周産期の医療と看護）	1	30	
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	
		精神看護学方法論Ⅰ（疾病論）	1	30	
		精神看護学方法論Ⅱ（精神障害を有する対象の看護）	1	30	
	看護の統合と実践	看護管理	1	15	
		医療安全	1	30	
		災害看護学・国際看護学	1	30	
		統合看護技術	1	15	
				37	975
	領域横断	看護研究	1	30	
		家族看護	1	15	
		気づきのトレーニング	1	30	
		薬物療法と看護	1	15	
		周術期と看護	1	30	
		エンド・オブ・ライフ・ケア	1	15	
	専門分野　単位数　時間数			43	1110
	臨地実習	基礎看護学実習	基礎看護学実習Ⅰ（コミュニケーション）	1	45
			基礎看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）	2	90
		地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ（地域包括支援センター）	1	32
			地域・在宅看護論実習Ⅱ（訪問看護ステーション）	2	64
		成人看護学実習	外来における看護実習（成人看護学実習）	1	45
			急性期における看護実習（成人看護学実習）	2	90
		老年看護学実習	地域で暮らす高齢者のケア（老年看護学実習）	2	90
			回復期・慢性期における看護実習（老年看護学実習）	2	90
			緩和ケア実習（老年看護学実習）	1	45
		地域支援	地域における母子保健実習	1	32
		小児看護学	小児看護学実習	2	64
		母性看護学	母性看護学実習	2	90
		精神看護学	精神看護学実習	2	90
		看護の統合と実践	看護の統合と実践実習	2	90
臨地実習　単位数　時間数			23	957	
総単位数		102単位	総時間数	2937時間	

専門実践教育訓練明示書（古賀国際看護学院）

4. 教育訓練の受講の実績及び目標達成の状況

(1) 資格取得状況

① 前年度の修了者数	人			
② ①に係る教育訓練の入講者数	人			
③ ②のうち目標資格の受験者数	人	受験率(③/②)		%
④ ③のうち合格者数	人	合格率(④/③)		%
⑤ ①(修了者数)のうち就職者数 ※1	人			
⑥ ①(修了者数)のうち在職者数 ※2	人			
		就職・在職率(⑤+⑥/②)		%

※1 前年度の修了者のうち、受講開始時に職に就いていなかった者で修了後に就職した者。

この場合、就職したとは、臨時的な仕事に就職した者は含めない。

※2 受講開始時に既に職に就いていた者で、卒業後も引き続きその職にある者及び受講開始時に既に職に就いている者で、修了後に別の職に転職した者。

(2) 受講修了者による講座の評価等

① 回答者総数		人		
② 受講開始時の就業状況等	1 正社員	人		
	2 非正社員、派遣社員	人	}	②A: 就業者計
	3 その他の就業(自営業等)	人		
	4 非就業	人		②B: 非就業者計
③ 就業中の受講者による講座の評価	1 処遇の向上(昇進、昇格、資格手当等)に役立つ	人	}	③の回答数合計 ※②Aと同数(又はそれ以下)
	2 配置転換等により希望の業務に従事できる	人		
	3 社内外の評価が高まる	人		
	4 円滑な転職に役立つ	人		
	5 趣味・教養に役立つ	人		
	6 その他の効果	人		
	7 特に効果はない	人		
④ 就業していない受講者による講座の評価	1 早期に就職できる	人	}	④の回答数合計 ※②Bと同数(又はそれ以下)
	2 希望の職種・業界で就職できる	人		
	3 より良い条件(賃金等)で就職できる	人		
	4 趣味・教養に役立つ	人		
	5 その他の効果	人		
	6 特に効果はない	人		
⑤ 受講者の就業状況	1 受講中又は受講修了後3か月以内に就職した	人	}	⑤の回答数合計 ※②Bと同数(又はそれ以下)
	2 受講修了後3～6か月以内に就職した	人		
	3 受講修了後6～12か月以内に就職した	人		
	4 就職していない	人		
⑥ 講座の全体評価	1 大変満足	人	}	⑥の回答数合計 ※①と同数(又はそれ以下)
	2 おおむね満足	人		
	3 どちらとも言えない	人		
	4 やや不満	人		
	5 大いに不満	人		

(3) 受講者、受給者の修了後の状況(就職等の状況、受講修了者による教育訓練への評価状況、受講後の職務内容変化等の処遇改善の状況、一定期間内でのキャリアアップ成果やその事例、在籍・採用企業の側の評価 等)

5. 教育訓練の受講による効果の把握及び測定の方法並びにそのレベルを受講者に対して明らかにするための具体的な方法

1に掲げた教育訓練目標に対する技能・知識のレベル到達度の把握・測定方法	
(通信制講座の場合) スクーリングの実施場所、時期、期間・回数	

専門実践教育訓練明示書（古賀国際看護学院）

6. 受講効果の把握方法			
(1) 受講認定基準 (6ヶ月ごとの出席率・定期試験、進級試験等の具体的基準)		出席率66%(2/3)以上、試験得点率60%以上で合格、補講・追試は認める。	
(2) 受講認定基準に係る、教育目標に対する技能・知識のレベル到達度把握・測定方法		ペーパーテスト、演習及び課題提出	
(3) 修了認定基準 (出席率・修了認定試験等の具体的な基準)		出席率66%(2/3)以上、試験得点率60%以上で合格、補講・追試は認める。	
(4) 修了認定基準に係る、教育目標に対する技能・知識のレベル到達度把握・測定方法		卒業単位を満たすこと	
7. 受講中又は修了後における受講者に対する指導及び助言並びに支援の方法			
(1) 受講中の者に対する習得度・理解度に関する具体的な助言・指導の方法		・小集団教育による個別指導 ・講師との情報交換	
(2) 受講中又は修了時における資格取得・就職への具体的なバックアップ体制 (例: 資格取得関連情報や資格関連職種の求人情報の提供方法、早期就職に向けた具体的な相談体制の整備状況)		・適宜情報提供し、2年次に就職ガイダンスを実施 ・講義以外に国家試験対策(模擬試験、補講)を実施	
8. その他の事項			
指定教育訓練実施者名及び代表者名		社会医療法人天神会 (代表者名: 理事長 古賀 伸彦)	
住所及び連絡先		〒830-8577 福岡県久留米市天神町120番地 TEL 0942-38-2222	
施設名称及び施設長名		古賀国際看護学院 (学院長: 林 明宏)	
住所及び連絡先		〒839-0801 福岡県久留米市宮ノ陣3丁目7-47 TEL 0942-38-3866	
苦情受付者	氏名 楠田 千秋 所属 古賀国際看護学院	事務担当者	氏名 楠田 千秋 所属 古賀国際看護学院
連絡先	TEL 0942-38-3866	連絡先	TEL 0942-38-3866
専門実践教育訓練経費 支払い方法 ① 一括払 ② 分割払 ③ 両方可能	1. 専門実践教育訓練給付金の対象となる経費 (① + ②)		2,545,410 円
	① 入学料 (税込額) (※割引・還元措置を実施した場合にはその差引き後の税込額とすること。)		300,000 円
	② 受講料 (税込額) (※割引・還元措置を実施した場合にはその差引き後の税込額とすること。)		2,245,410 円 第1期 505,410 円 第2期 300,000 円 第3期 360,000 円 第4期 360,000 円 第5期 360,000 円 第6期 360,000 円 (うち、必須教材費 142,560 円)
	2. 専門実践教育訓練給付金の対象外となる経費 (① + ② + ③ + ④)		871,500 円
	① 任意の教材費(税込額)		0 円
	② 実習等に伴う交通費・宿泊費(税込額)		0 円
	③ 施設維持費(税込額)		500,000 円
	④ その他(法人への寄付金、PCの損害保険料、情報誌代) (税込額)		371,500 円
	3. 総額 (1+2) (税込額)		3,416,910 円